

令和5年度第1回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和5年4月13日（木）午前9時30分～午前11時15分

ところ：市役所5階 502会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 10人
傍聴者 なし

2 内 容

・教育長就任あいさつ

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和5年度小平市社会教育委員の会議等の開催日程について
- (2) 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について
- (3) 令和5年度小平市社会教育関係団体に対する補助金交付について

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【教育部】

- (1) 令和5年度各課・館事業概要等（地域学習支援課、公民館、図書館）について

【地域学習支援課】

- (1) 第19回小平よさこいスクールダンスフェスティバルin 2023について（報告）
- (2) 第16回多摩六都ヤング・ダンスフェスティバルについて（報告）
- (3) 令和4年度青少年リーダー養成講座について（報告）
- (4) 令和5年度青少年リーダー養成講座について

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（3月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（5月）について

【図書館】

- (1) 令和5年度こだいら子ども読書月間について
- (2) 小平市立図書館の休館について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

<令和5年度小平市社会教育関係団体に対する補助金交付について>

○委員 地域をよくするための様々な活動に対する支援、その中で補助金について、この事業の持続、継続性の評価はどういった形で毎年行っているのか。

○事務局 ここ数年の状況では、コロナ禍で事業自体が実施できていない。その中で、各団体も少し内容の見直しなど行い、以前のおり同じ活動をするのではなく、様々見直す部分も含めて今後引き続き活動を継続していくと考えている。

○委員 1点目、資料No.3の小平市青少年対策地区委員会の参考資料、七小のところで、小平第七小学校の青少対の会長をしているので説明すると、事業費ゼロ、補助対象事業費ゼロ、補助金額ゼロと並んでいるが、コロナ禍において事業自体は難しいということで、令和3年度は計画を立てなかった。ただ、役員会、常任委員会は開催していた。会報の青少対だよりも数回発行し、活動を止めたということではなく、これまでの繰越金の中で、自主的に活動はしていた。

2点目は意見で、近年AI技術が発達して、文章もつくれる。こういった中で地域の人、小平の人にとって何が必要なのかと考えたときにつながりが大事ではないかと思った。こういった自主的な活動をしている団体、また、そこから広がりをもって活動している団体への補助金は、この金額で小平の全体が活性化していく、小平がよくなっていくということであれば、ぜひ続けていただきたい。

○委員 この青少年対策地区委員会の事業は、各小学校区、すなわち全市民の児童・生徒、保護者、地域の方々が関わる市を挙げての取組だと思う。そして、郷土意識を高めたり、いろいろなことをしている。社会教育委員は基本、独任性で自分たちで出かけて行って、いろいろ調査できるので、自分の所属している小学校区などへ出かけてご覧になると、どんな効果があるのかが身をもって分かると思う。

○委員 子ども会育成者連絡協議会の子ども会だよりを見ると分かるが、小平市内全域ではなく、地域が偏っている。できたら市内に広げていただければと思う。

○議長 それでは、令和5年度の社会教育関係団体に対する補助金の交付に当たっては、本会議の意見等を踏まえ適正な執行をお願いします。

<事務局報告>

○委員 資料No.9のこだいらオール公民館まつり②の実演で、高校生事業企画委員や、大学などのNゲージの展示は新たな試みで、ふだん公民館にあまり縁がない方々がたくさんいらしたということで、素晴らしいことだと思う。あまり来たことがない方を中に取り込むのはいいことだと思う。

資料No.4-4の公民館事業計画の5ページ、公民館事業企画委員の企画講座の一覧表で、ゼロは気になる。防災・生活安全の区分が上宿と小川西町と津田3件ともゼロ。事業企画委員会で挙がらなくても、職員の中で当たってもらうなど、そういう流れはなかったのか。

○事務局 防災・生活安全の講座は、事業企画委員会での発案が少ないジャンルになっている。

公民館としても必要な区分と認識していて、今回ゼロだった区分は、必要性を各館長に伝えて、今後なるべく1講座は企画できるように委員の皆さんに促すなど、工夫に努めたい。

○委員 委員から出てこなかったら、事業企画委員会企画以外の公民館の独自講座としてやってほしい。小川駅の周りの自主防災組織の会長をしており、防災安全の方に来ていただいて防災訓練や、いい講座をしていただいている。

○事務局 私どもの講座でも防災危機管理課、地域安全課職員の講義を依頼したり、消防署にも協力を依頼して講座を開設しているので、今後、どのような形で、またより多く開設できるか検討したい。

○委員 花小金井南公民館の事業企画委員になっている。実は防災・生活安全の話題は真っ先に委員の中から出る。まず地域の課題や地域の要請、ニーズはどこにあるかから話が始まる。特に防災、安心・安全は、真っ先に出てくる。ただ、講座を実際に企画する段階に、自助や共助と一緒にやっていって呼びかけたい方々をどうしたら呼べるかということが、なかなかいい知恵が出なくて、講座化することが難しい。

資料No.4-4の公民館事業計画の10ページに、小学校を核とした地域コミュニティの醸成を図るための公民館の在り方とあるように、学校と公民館が連携していこうということから、学校で行っている活動等と、公民館がやろうとしている活動等を、うまく橋渡しをして、例えば小平第五小学校で言うなら、緊急初動要員訓練を避難所開設訓練として行っている、それも公民館事業の講座の一つに位置づけて、それを見ませんかとか、避難所となったときにどんなふうにするのか、防災倉庫の中に何が入っていて、それをどんなふうが発災時に使うのか、実際にみんなで体験してみませんかと投げかければ、少しは行けるかなと思った。

○議長 コミュニティ・スクールの中に防災委員も入っているかと思う。公民館と連携し1校だけでなく3校ぐらいで意見交換をしながら、地域の人たちにどういうふうに戻元できるか。例えば学校ではこういうことをやっている、地域の人が初めて知ることたくさんあると思うので、まずそちらからやっていただいて。

○委員 私の住んでいる近く、小平第九小学校、鈴木小学校、小平第二小学校は公民館が近くにない。その関係で、どうしても公民館との連携ができないので、それも企画の中に入れていただければと思っている。

○委員 上宿公民館の事業企画委員をしている。確かに防災・生活安全、私自身もすごく大事だと思って、毎回提案をしているが、やはり地域性もある。介護関係の方や、シルバー世代の方を面倒見ている方が何人かいて、すごく健康や、シニアの安全とも言える、生活安全にもつながるが、地域支援やシニアという項目に当てはまる提案が多いこともあって、必ずしも、各項目に振り分けたときに、ゼロが出てきてもしようがない。どういう人を講師にし、どういう人を対象にしてやるかという、ちょっと難しかったりする。

この公民館の事業計画の中で、今年またすごくよくなったという感想を持った。次世代を大事にするというか、人材育成だったり、多世代交流だったり、そういうところにすごく力を入れているのが目に見えて分かるので、館長としては、何か思いみたいな、具体案みたいなものが何か

あるのか。あとは若い世代の意見をよく聞くという、この私たちの世代ではなくて、若い世代から意見を聞くことがすごく大事ではないかと思っているので、お聞きする。

○事務局 公民館は地域コミュニティの核の一つとして機能させていきたいと考えており、それはコミュニティ・スクールと同じ考え方だと思うので、これからも学校と連携していけるよう、協力をお願いできればと思っている。前向きに検討したい。

次に、学校の近くに公民館がないことについて、おおむね各公民館で近隣の学校について、緩やかな地区割は検討してある。二小であれば仲町、九小であれば鈴木という形で担当館を決めているので、連携していくことを今後考えていきたい。

次に、地域性については、音楽に力を入れている公民館、絵のサークルが多い公民館、または複合館と、それぞれ個性を持っているので、中央館長としては各分館にもっと個性をアピールするよう言っている。ただ、そればかりに力を入れてしまうと、地域で学びたいという方に偏りが出してしまうので、やはり防災も取り組まなければいけない、満遍なくということで7区分がつくられているので、なるべく偏りのないように取り組んでいきたい。

次に、若者の考え方ですが、やはり公民館は私よりも人生の先輩である方がたくさん来ているが、小学生などと一緒に活動すると、その先輩方の笑顔が輝き始める。それを考えると、若い人たちに関わってほしいという思いは強くある。

今年、事業企画委員会で発案されたメダカの学校という講座をする。小学生の親子を呼んでメダカの育て方を公民館でやってもらい地域の方と世代間交流をしてもらう。そして、小学生からずっと公民館に通って利用してもらって、公民館の存在を知ってもらう。

高校生事業企画委員会もその狙いのおお。公民館で社会活動してもらい、卒業後も公民館に遊びに来てもらう。社会教育に触れるのは、大学に入って以降になるので、それよりも若いときに社会教育に触れることは、その路線を選ぼうとする人が増えることになるので、そういったことも視野に入れながら、若い人たちと人生の先輩方が交流することを願っている。

○委員 大沼公民館の事業企画委員をしていて、避難所運営マニュアルを体験しようという企画をした。小平第七小学校と大沼公民館の一体感ということで企画した。

防災・生活安全の企画は本当に出ない。それで、あえて出してる感じもあり、1点お願いになるが、この地区ではこういった取り組みや事業が、あるいはこの小平市で取り組んでいる事業としてこういったものもあると提示していただくと、その館の事業企画委員会の話合いの中で採択できれば採択するという、提案があるとすごくありがたいと思う。

もう1点、前年度から1,000万円以上の予算の差がある事業について、こういったことなのか伺いたい。

○事務局 各分館で様々な提案ができるように工夫していきたいと考えているので、各分館長にも、各区分における情報をまず収集しながら、そして会議のときに、こういったものもいかがですかと提示できるように努めていきたい。

2点目の中央公民館に関しては、上宿公民館の屋上防水工事が2,500万円、電気代が約1,300万円の増が大きなところになっている。

○事務局 図書館では、光熱水費の高騰で、電気料金等が大幅に増えている。

○委員 小平第五小学校と小平第三中学校で地域教育コーディネーターをしている。地域教育コーディネーターは地域と学校を結ぶパイプ役でもあるので、今まで学校の中ばかりに目を向けていたが、公民館との連携も大事だと今、思っている。

図書館事業でもブックスタートの話は聞いており、コロナで読み聞かせのボランティアができていないと思っていたが、また令和5年度から始めていくということで、子育て中は母親が孤立しがちなので、そういう事業をぜひ進めていただきたい。

資料No.4-3で、非核平和学習事業が予定されているが、このチラシが4月の始業式のタイミングで配布されていたと思う。これは8月の事業で、4月中に締め切りは早いと思う。また、昨年度は応募多数で、抽せんに漏れた方がいると思うが、また応募された際に、優先的に選んでいただけののか。

○事務局 小・中学生広島平和学習は予算の成立を待って、4月に入って新しい小学5・6年生、中学生を対象にチラシを配布している。10人定員で、小学生と中学生で宿泊費などが変わるので、少し早めに募集を締め切り、行く小・中学生の人数割を決めてからでないと、宿泊施設等の申込みができない関係で少し募集の期間は短くなっている。

次の年また申し込めるので、やはり上級学年を優先に考えて抽せんを行って、男女のバランスもある。また、何回もという方は、少し優先的な感じでの抽せんを行っている。

○委員 公民館に関して、マゼンタ・スターのことで、お困りの方がいたら協力しますという印で、マゼンタ色の星の缶バッジを作ったが、白梅学園清修中高一貫部の若い生徒が教えてくれる、説明してくれるのがとてもいい、すばらしいと思った。社会教育に早いうちから触れる、プラス、探求の学習、自分たちが思うことについて考えて、みんなの前で説明する、話をする。若い学生、生徒にとってはとても重要なことだと思った。今まで抜けていた高校生、中学生も活躍できる公民館であってほしいと、もっと頑張ってもらいたいと期待している。

仲町のティーンズ委員会も、いろんなところで広がればいいと思っている。今中学生の活躍というのが、この資料の中であまり見えてこなくて、中学生も活躍して高校生も活躍して、みんな頑張るといところが夢みたいでいいなと、期待したい。

担当が違うが、資料No.4-1の9ページのコミュニティ・スクールの推進と関係することで、先日コミュニティ・スクール委員の辞令交付式に出席したとき感じたことで、教育長から辞令をいただいて、40分で終わってしまって解散。何かもったいないと思った。前期の自主研究のアンケートでも、各校の情報が欲しい、情報交換というものがあり、何かその場が活用できないか、有効に使えればいいと感じた。

放課後子ども教室について、コロナ前の実施報告を見ると、各校で教室の回数が全然違う。それぞれに事情はあると思うし、学校との関係もあると思うが、放課後の子どもたちの安全で安心な居場所づくりも大きな目的でもある。もう少しコーディネーターには頑張ってもらっていて、充実した放課後子ども教室になるといい。そのためにも、やはり情報交換が、たくさん実施しているところからの情報をいただくなど何とかできないか、これも期待したい。

○委員 中央公民館の事業企画に出っていたので、偏りがあることは分かる。やはり防災というテーマは年に一遍くらいあったほうがいいのではないかと、社会教育委員の意見として。一つ提案は、もし事業企画委員会が出なければ、公民館の独自の事業として実施してほしい。

また、職業能力開発総合大学校、なかまちテラスのイルミネーションで官学連携しているが、地域の学校の中で専門家がいるので、その辺も当たってみるといいと思う。

○事務局 検討させていただく。

○委員 資料No.4-3の2ページ、(7) ホッとHOTこだいらファミリーデイ事業、基本は家庭、親子の絆ということで十何年前に始まったが、当時は各校に登り旗が配られて大分古くなってきているが、また、地域の商店なども協賛してサービスが受けられることもやっていたが、最近これを見ることが少なくなってきた。こういう事業があるということを周知することが大事ではないか。盛り旗が配られたが、分かっていない方が多い。また、企業にも何か働きかけたほうがいいのではないか。

○委員 資料No.4-4、公民館の今回の事業計画はすごいと思った。誰もが参加しやすい事業の実施、オンラインの活用、またWi-Fiの試行導入、すごい画期的なことが書かれている。また、シニア世代のデジタルデバイドの解消もある。このシニア世代は意見を聞いて、自分の生活スタイルに合ったデジタルデバイスでないと駄目だと思うので、そこを考慮した上で進めていただければと思う。

○議長 資料No.4-2の6ページ、図書館事業の(46) ハンディキャップサービスについて、予算が削られているが。

○事務局 35万円ほど減額になっているが、令和4年度に事業で使用する機材の購入があり一時的に予算が増えた。令和5年度は新たな購入はなく、その分が減っていて事業そのものを縮小するという事ではない。

○議長 皆さんにご発言いただいた。いろいろ参考にさせていただき、事業が進められることを願っている。

<その他>

○委員 この会議はZoomでも参加できるか。

○事務局 基本的には対面だと考えている。